

情報を集めて、自分の考えをまとめる

1 指導のねらい

- (1) 必要な情報を正しく読み取ることができる。
- (2) グラフから必要な情報を読み取り、まとめることができる。
- (3) 複数の資料から読み取った情報を根拠として示しながら、自分の立場を明確にして意見を書くことができる。

2 指導過程

学習活動と発問 (発は発問)	指導上の留意点と評価 (評は評価)
<p>(1) 本時の学習のねらいを確かめる。</p> <p>(2) 自分たちがどのような形でネット社会とかがかかわっているかを考える。</p> <p>(3) ネット社会の明暗（利便性と危険性）について班で話し合い、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発 【A】【B】から読み取れるネット社会のよいところと悪いところを考えよう。また、その他にはないだろうか。</p> </div> <p>(4) グラフを的確に読み取る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発 【C】のグラフからどんなことが分かるか。</p> </div> <p>(5) これから自分がネット社会とうまくかかわっていくためには、どうすればよいのかを考えて意見文を書く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>発 あなたはとネット社会とどうかかわっていきこうと思うか。</p> </div> <p>(6) 班で意見文を交流し合う。</p> <p>(7) ネット社会に参加するときのモラルについて考えさせ、班で話し合わせる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ネット社会とは、どのような社会をいうのかを説明し、それについて考えていく授業であることを伝える。 ・ パソコンや携帯電話を使ってのインターネット・メールなどの形でかかわっていることを確認する。 評 積極的に発表できているか。 ・ 学習プリント①の【A】【B】から考えさせる。その後、それ以外の点について、班で話し合わせ、全体で発表させる。 評 理由を挙げて意見が言えているか。 ・ 変化の様子に注目させる。 評 グラフの特徴が読み取れているか。 ・ ネット社会のよいところと悪いところを整理して書かせる。 ・ これからのかかわり方について、学習プリント②に自分の考えを書かせる。 評 条件に従って文章が書けているか。 ・ 互いの文章を読み合って、多様な意見を交流させたい。 評 他の人の意見をしっかり聞き、自分の考えを深めているか。 ・ ネット社会に参加するときのルールについて、どのように考えるかを話し合わせる。 評 理由を明確にして話し合っているか。

【学習プリント①】

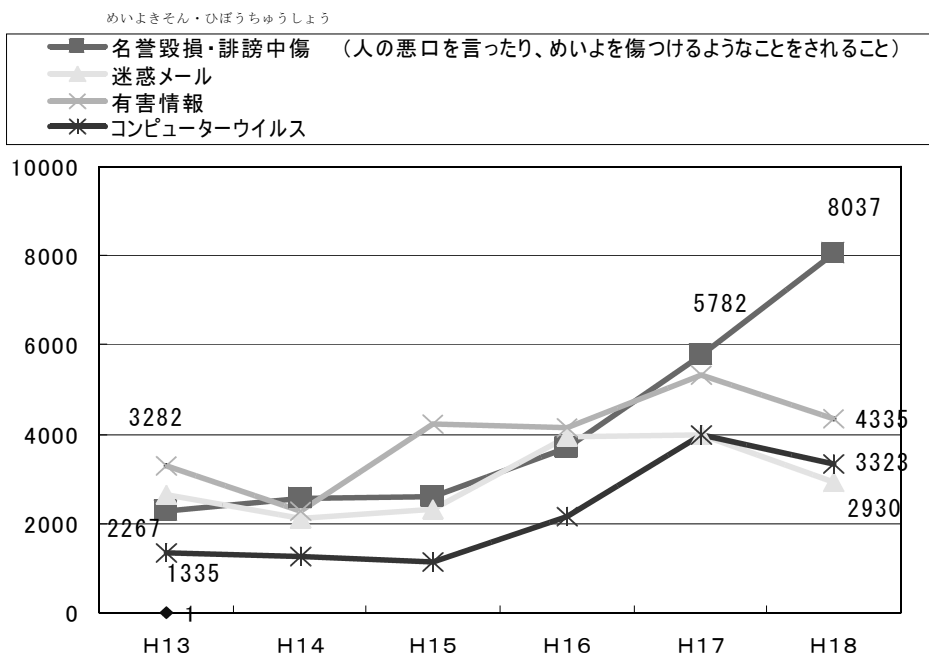
【A】Aさんの意見文

私たち二十一世紀に生きる現代の中学生は、ネット社会とかかわる機会が年々増えつつある。パソコンが使えるようになったおかげで、インターネットを通して世界の情報を短時間で手軽に手に入れられるようになった。私も調べ学習をするときにはよく使い、重宝している。また、携帯電話を持つようになって、気軽にメール交換ができるようになり、交友の範囲が飛躍的に広がった。これもとてもうれしいことである。

【B】ある二人の中学生の会話

小椋さん 昨日遅くまでインターネットやってたから、すごく眠いわ。
 潮田さん 私もついつい夢中になって、気がついたら午前三時だった。
 小椋さん 私よりすごいね。
 潮田さん ところで、この間、私のブログに変な書き込みがあったの。
 小椋さん どのなの？
 潮田さん 私の悪口がいっぱい書いてあって、泣きそうになったわ。
 小椋さん だれ、そんなひどいことするの？
 潮田さん それが、わからないのよ。名前も何も書いてないし。
 小椋さん そうよね、ネットはだれが書き込んだかわからないものね。

【C】インターネット等のトラブルに関する
相談件数 (警察庁 平成十九年二月広報資料より)



中学生の山田さんは、次に示すような意見文【A】、会話【B】、グラフ【C】を資料として、ネット社会（インターネットで広がる社会）について考えることにしました。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。

【A】ある中学生の意見文

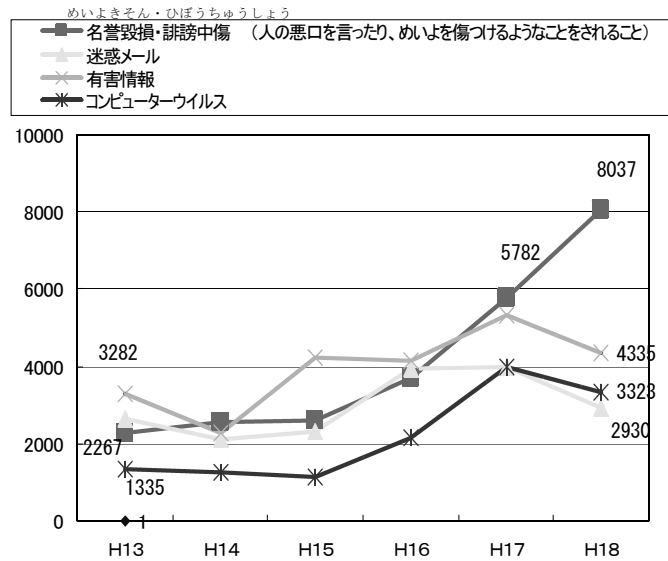
私たち二十一世紀に生きる現代の中学生は、ネット社会とかかわる機会が年々増えつつある。パソコンが使えるようになったおかげで、インターネットを通して世界の情報を短時間で手軽に手に入れられるようになった。私も調べ学習をするときにはよく使い、重宝している。また、携帯電話を持つようになって、気軽にメール交換ができるようになり、交友の範囲が飛躍的に広がった。これもとてもうれしいことである。

【B】ある二人の中学生の会話

小椋さん 昨日遅くまでインターネットやってたから、すごく眠いわ。
 潮田さん 私もつい夢中になって、気がついたら午前三時だった。
 小椋さん 私よりすごいね。
 潮田さん ところで、この間、私のブログに変な書き込みがあったの。
 小椋さん どのなの？
 潮田さん 私の悪口がいっぱい書いてあって、泣きそうになったわ。
 小椋さん だれ、そんなひどいことするの？
 潮田さん それが、わからないのよ。名前も何も書いてないし。
 小椋さん そうよね、ネットはだれが書き込んだかわからないものね。

【C】インターネット等のトラブルに関する

相談件数（警察庁 H十九年二月広報資料より）



一 【A】を読んで、ネット社会の便利な点を五十字以内でまとめて書きなさい。

二 【B】の場合、ネット社会でのこのようなトラブルはなぜ起きると考えられますか。会話の中の言葉を用いて、二十字以内で答えなさい。

三 【C】のグラフを見た山田さんはある特徴に気づきました。ここ数年での変化が最も大きいことを中心にわかることを書きなさい。

四 【A】【B】【C】から、あなたはネット社会とどのようにかかわっていらっしゃいますか。次の条件にしたがって書きなさい。

条件1 インターネットの明と暗（利便性と危険性）の両方に触れること。

条件2 二百字以上二百五十文字以内で書くこと。

◎出題のねらい

- ・文章を読んで、その要点を正しく読み取ることができかどうかをみる。
- ・目的や課題に即して、グラフから分かったことを正確に読み取ることができかどうかをみる。
- ・複数の情報を基に、根拠を明らかにしながら、自分の考えを明確にして書くことができかどうかをみる。

【解答例】

一 世界中の情報を短時間で手に入れたり、メール交換により交友の範囲を広げたりできること。 (四十二字)

*前半と後半の二つの要素が書いていれば正答とする。

二 だれが書き込んだかわからないから。(十七字)

三 平成十三年に比べ、どの相談件数も増加の傾向にあるが、なかでも、悪口を言われたり、めいよを傷つけるようなことをされたりするトラブルが増えていることがわかる。

*名誉毀損・誹謗中傷の相談件数の増加が顕著であることが指摘できていれば正答とする。

四 最近のネットワーク関連技術の進化とその普及により、様々な場所でインターネットの情報サービスを利用する機会が増えてきた。知りたいときに知りたい場所で情報を手に入れられるのは大きな魅力だ。その一方で、その利用にあたって被害にあったり、反対に本人の自覚のないまま、他者やネットワークに害をおよぼす可能性も考えられるようになってきた。これらのトラブルを避けるためにもネット社会における一定のルールを学んでおかなければならないと思う。(二百十二字)

*内容については、ネット社会の明暗にふれ、自分がネット社会とどうかかわっていかか書いていれば正答とする。
 正答例で言えば、部分が「明」、部分が「暗」、部分がネット社会とどうかかわっていかか書いていれば正答とする。
 部分がネット社会とどうかかわっていかかについての自分の考えである。